

成果概要書

革新的な三次元映像技術による 超臨場感コミュニケーション技術の研究開発

(1) 研究の目的

人間の空間認知メカニズムに基づき、実在感、臨場感という感性情報を十分伝達できる立体表示方式の開発に必要な、脈波、脳計測などの客観的計測に基づく臨場感計測技術の確立を目的とする。

(2) 研究期間

平成 2 1 年度から平成 2 3 年度 (3 年間)

(3) 委託先企業

シャープ (株)

(4) 研究予算 (百万円)

平成 2 1 年度	9 . 9 (契約金額)
平成 2 2 年度	9 . 3 (")
平成 2 3 年度	8 . 8 (")

(5) 研究開発課題と担当

課題工 : 感性情報認知・伝達技術

(6) これまでの主な研究成果

具体的な成果

- (1) 脈波分析に関する 3 種 (LF / HF、CVRR、max) の既存手法と、1 種以上の新規手法を、組み込んだ、脈波分析システムを開発した。
- (2) 想定される感性情報伝達に係る要因 (1 0 種) について、実験フレームを検討した。
- (3) 脈波計測による生体作用評価実験で、基礎データを収集した。

(7) 研究開発イメージ図 (別紙)